

「開成町」ってどんな町

統計データから見る開成町

企画政策課 ☎84・0312

町民の皆さんに統計データから見た開成町の特徴を知っていただくため神奈川県が9月に発行した「ランキングかながわ(地域編)」や町が3月に発行した「統計から見る開成町」開成町の今と昔・町の特色」、そのほか各種統計指標から開成町の特色となっている主な内容を紹介します。



平成22年4月に開校した開成南小学校

人口の増加率は県内1位

開成町は昭和30年2月に酒田村と吉田島村が合併して誕生しましたが、当時の人口は4,633人でした。その後人口は増加を続け、約3.5倍に増えました。

なお、平成22年国勢調査の人口増加率は前回調査比8.2割増で県内の33市町村で1番の増加率となっています。また、1世帯当たり人員は2.8人で多い方から県内5位となっています。全国的に人口減少社会となると予想されていますが、町の南部地区の開発などにより、開成町では今後もしばらくは人口増が続く見込みです。

児童・生徒数は増加傾向

町の小学校はこれまで開成小学校1校のみでしたが、児童数の増加により、平成22年に開成南小学校を開校しました。全国的に少子化が進む中で子どもが増えていることが開成町の大きな特徴です。

通勤・通学の状況

常住人口に占める町外への通勤・通学者割合は県内で3番目に高く、流出・流入をふまえた、昼夜間人口比率常住人口100人当たりの昼間人口の割合は93.0割で高い方から12位となっています。

開成町に住む人の通勤・通学先、開成町に通勤通学する人の居住地は、ともに開成町以外では小田原市、南足柄市や近隣の市町が多くなっています。

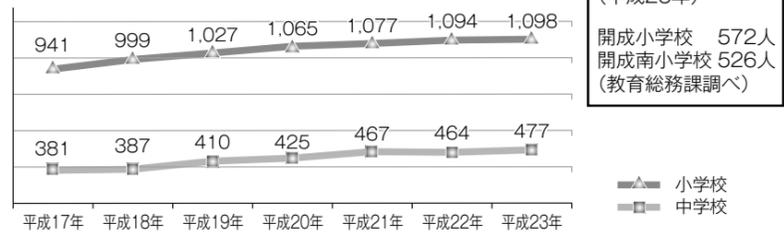
一方で、神奈川県内以外にも東京都や静岡県といった都道府県へ通勤・通学する人もいることがわかります。

家庭から出たごみの回収・種類

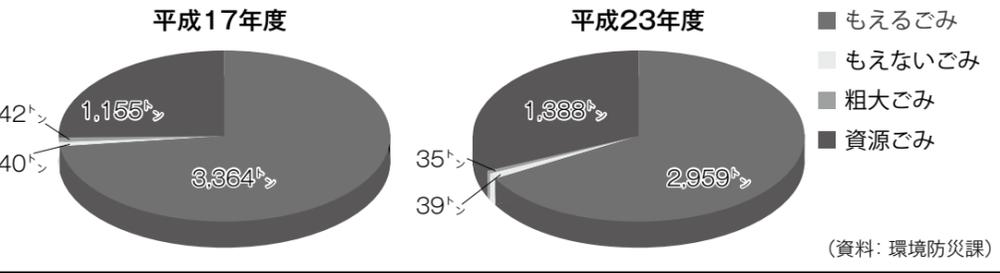
最近の傾向として、ごみ減量の意識の高まりから、ごみを減らす、資源化し再利用する、といった処理方法が増えてきています。

ごみの総量は平成17年では4,601トでしたが、平成23年には4,421トに減少しています。内訳をみると、資源

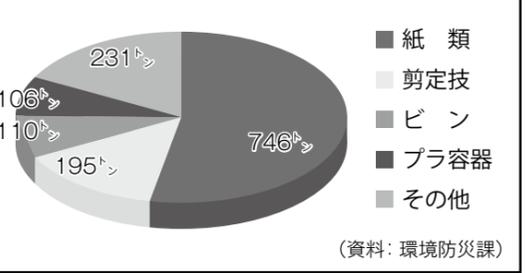
在学者の移り変わり



ごみの排出量



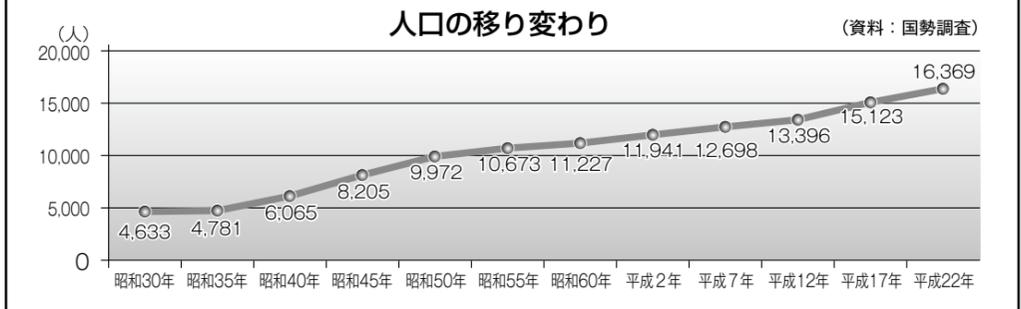
資源化されたごみの内訳(平成23年度)



平成17年には3,446トであったものが、平成24年には3,033トとなりました。

また、資源化されたごみの内訳をみると、新聞紙、雑誌、雑がみ、ダンボール、牛乳パックからなる紙類でほぼ半分くらいに割合となり、そのほか剪定枝(開成グリーンリサイクルセンターへの直接搬入など家庭から直接出た剪定枝すべてを含む)やビン、プラスチックの順で多く資源化されています。なお、「その他」には金属、布、ペットボトル、食品トレー、乾電池、蛍光灯、資源集団回収で収集されたものが含まれています。

人口の移り変わり



平成23年中の人口増減の内訳は、自然増が40人、社会減が31人となっています。なお、自然増減率は割合が高い方から3位、社会増減率は割合が

高い方から23位、人口増減率全体では10位となっています。

平成23年中 人口増減内訳

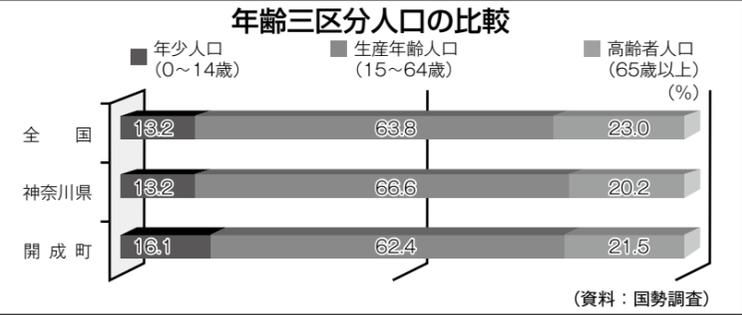
| | |
|------|------|
| 自然増減 | |
| 出生 | 166人 |
| 死亡 | 126人 |
| 自然増 | 40人 |
| 社会増減 | |
| 転入 | 603人 |
| 転出 | 634人 |
| 社会減 | △31人 |

合計特殊出生率は県内で1位

15〜49歳までの女性の年齢別出生率を合計した合計特殊出生率は、県内で1位

開成町の0〜14歳の年少人口、15〜64歳の生産年齢人口、65歳以上の高齢者人口の割合はそれぞれ16.1割、62.4割、21.5割で特に年少人口割合は県内で2番目に高い割合となっています。

県全体や全国の平均と比べて年少人口(0〜14歳)の割合が高く、また、高齢者人口(65歳以上)の割合は県と全国の間となっています。



出生率は1.58で県内で1番高く、近年高い数値を維持しています。

また、0〜14歳の増減率を表す年少人口増減率、15〜64歳の増減率を表す生産年齢人口増減率は平成23年中でそれぞれ9.9割、3.0割でともに2番目に高い割合となっています。

統計から見る開成町の特色を配布

町企画政策課では、「統計から見る開成町」を配布しています。

サイズはA4判、20ページです。ご希望のかたは企画政策課までお越しください。また、町ホームページでも閲覧することができます。

HP <http://www.town.kaisei.kanagawa.jp/>

